

特集にあたって -- 増加するアジアの航空貨物 (特集 アジアにおける航空貨物と空港)

著者	池上 ?
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	252
ページ	2-3
発行年	2016-09
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00002865

特集にあたって

増加するアジアの航空貨物

池上寛

●はじめに

グローバル化が進展した今日、製造業企業は国際分業体制を構築するようになってきている。国際分業は国をまたがる部材や原材料の輸送によって達成することが可能であり、ジャスト・イン・タイム(Just in Time: JIT)やサプライ・チェーン・マネジメント(Supply Chain Management: SCM)といったより高度な物流体制を製造業企業は選択している。航空機による輸送は最速でできることもあり、国際物流において重要な役割を果たしている。特に近年その重要性は高まってきている。

今回の特集では、アジアにおける航空貨物に焦点をあて、航空貨物だけではなく密接に係る空港、政策、航空会社の動きなどについて取り上げる。各国・地域の動きとしては、日本、中国、韓国、

台湾、シンガポールを取り上げている。これらの国・地域は後ほど述べるが、アジアを代表する国際空港を持ち、多くの国際貨物を取り扱っている。また、日本と中国には国内貨物を多く輸送する航空会社が、韓国、台湾、シンガポールには国際貨物を多く輸送する航空会社があることもアジア地域の航空貨物輸送に貢献している。

また、今回の特集では各国・地域の動きだけではなく、ASEANが経済共同体の一環として構築している単一航空市場の動き、アジアの国際航空貨物輸送におけるインテグレーターと呼ばれる欧米の国際総合物流大手企業の動きも取り上げている。これらの動きをみることで、アジアでの航空貨物に関する動きがどのようなものになっているのか、理解していただけるのではないかと考えている。

●地域別航空貨物の動き

まず、世界の航空貨物の動きを見てみよう。表1は地域別の国際航空貨物取扱量を二〇一〇年から二〇一四年まで示したものである。この表は国際航空運送協会(IATA)に加盟している航空会社が取り扱った貨物取扱量であるため、データの補足率は九〇%以下であるが、おおよその動きは理解できよう。国際航空貨物の取扱量は二〇一一年をのぞいて増加傾向であることがわかる。また、地域別ではもっとも多くの貨物を取り扱っているのはアジア太平洋地域である。二〇一一年をのぞいて、アジア太平洋地域での貨物取扱量は一二〇〇万トンを超えている。ほかの地域をみると、アジア太平洋地域に次ぐのはヨーロッパ地域、そして北米地域が続いている。航空貨物全体に占めるアジア太平洋

地域の割合は二〇一〇年および二〇一一年には四〇%台であったが、二〇一二年以降は四〇%台を切っている。この要因のひとつには中東地域における航空貨物輸送が大きく増加していることがあげられよう。

●国際空港における取扱量

次に、航空貨物輸送の拠点である国際空港について考える。表2は二〇一五年における国際航空貨物取扱上位一〇空港を示したものである。この表からわかるよう

表1 地域別国際航空貨物取扱量

(単位:万トン)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
アフリカ地域	62	62	65	65	68
アジア太平洋地域	1,261	1,187	1,219	1,226	1,295
ヨーロッパ地域	570	647	699	732	754
ラテンアメリカ地域	96	102	111	115	119
中東地域	376	396	454	491	536
北米地域	502	496	528	524	553
合計	2,868	2,890	3,075	3,153	3,325
アジア太平洋地域が占める割合	44.0%	41.1%	39.6%	38.9%	38.9%

(注) IATA 加盟航空会社の提出資料であり、データ捕捉率は90%未満。
(出所) IATA, World Air Transport Statistics 各年版、より筆者計算。

表2 国際航空貨物取扱上位10空港
(2015年、速報値)

順位	空港名	国・地域名	取扱量(万トン)
1	香港	中国	438.0
2	ドバイ	UAE	250.6
3	仁川	韓国	249.0
4	上海浦東	中国	237.9
5	成田	日本	203.6
6	台湾桃園	台湾	200.5
7	アンカレジ	アメリカ	195.7
8	フランクフルト	ドイツ	195.1
9	パリ	フランス	186.1
10	シンガポール	シンガポール	185.3

(出所) ACI ウェブサイト。

に、国際航空貨物を取扱う最大の空港は香港であり、その取扱量は四三八万トンという圧倒的なものであることがわかる。香港以外のアジア地域の空港をみると、仁川、上海、成田、台湾桃園、シンガポールの五空港が国際航空貨物取扱上位一〇空港であり、シンガポールを除くアジア地域の空港は二〇〇万トン以上の取り扱いがある。このことからわかるように、これらの空港を中心にアジア地域における国際航空貨物が取り扱われているのである。

●航空貨物輸送上位航空会社

最後に、航空貨物を輸送する航空会社の状況を確認することとする。表3は、航空会社による航空貨物取扱量を国内貨物と国際貨物に分

類し、上位一〇航空会社を示したものである。国内貨物をみると、上位二社はアメリカのフェデックス社とUPS社が圧倒的な取扱量である。両社はインテグレーターと呼ばれる、航空貨物の輸送だけではなく、貨物の引き受けから配達まで一貫作業で行っている企業である。三位以下の航空会社はすべて中国、日本、インドネシアといったアジア地域の航空会社によって輸送されている。そのなかでも中国系航空会社五社が上位一〇航空会社を占めている。

一方、国際航空貨物をみると、一位には中東系のエミレーツ航空のみが二〇〇万トンを超えている。また、カタール航空、エティハド航空といった中東系航空会社二社が上位一〇航空会社に入り、インテグレーターであるフェデックス社とUPS社も多くの国際航空貨物を取り扱っている。

アジア地域の航空会社をみると、キャセイパシフィック航空、大韓航空、チャイナエアライン（中華航空）、シンガポール航空の四社が国際航空貨物の上位一〇航空会社である。これら四社はアジアNIESと呼ばれる国・地域の航空会社であり、ナショナルフラッグ

と呼ばれる国・地域を代表する航空会社である。また、これらの航空会社の拠点空港は表2の香港、仁川、台湾桃園、シンガポールの各空港である。これらの航空会社の取扱量が多いことが、拠点空港の貨物取扱量に貢献しているのである。

●おわりに

紙面の関係でここでの議論はかなり限定した形になったが、国際航空貨物がアジアを中心に展開されていることは理解できたであろう。

今回の特集でアジアの国際航空貨物に関する状況を少しでも理解する一助になれば幸いである。なお、今回の特集の各論文の詳細な議論や航空貨物に関する動きなどは、アジ研選書『アジアの航空貨物輸送と空港』として二〇一七年一月に出版される予定である。それもぜひ一読されたい。

(いけがみ ひろし/アジア経済研究所 在台北海外調査員)

《参考文献》

- ① Airports Council International (ACI), *World Airport Traffic*

表3 航空貨物取扱量上位10航空会社 (2014年)

(単位: 万トン)

国内貨物取扱量				国際貨物取扱量			
順位	航空会社名	国籍	重量	順位	航空会社名	国籍	重量
1	FedEx社	アメリカ	515.1	1	エミレーツ航空	UAE	228.8
2	UPS社	アメリカ	280.9	2	FedEx社	アメリカ	197.7
3	中国南方航空	中国	96.5	3	キャセイパシフィック航空	香港	149.8
4	中国国際航空	中国	68.9	4	UPS社	アメリカ	143.1
5	中国東方航空	中国	57.1	5	大韓航空	韓国	143.0
6	全日本空輸	日本	50.5	6	チャイナエアライン	台湾	129.6
7	日本航空	日本	33.6	7	カタール航空	カタール	115.8
8	ガルーダ・インドネシア航空	インドネシア	31.9	8	シンガポール航空	シンガポール	107.8
9	海南航空	中国	29.4	9	ルフトハンザ航空	ドイツ	96.3
10	深圳航空	中国	24.8	10	エティハド航空	UAE	85.4

(出所) IATA, *World Air Transport Statistics*, 59th Edition, 2015 より筆者作成。

- ② *Report*, Geneva: ACI, 2015.
- ③ International Air Transport Association (IATA), *World Air Transport Statistics*, Montreal: IATA, 2015.
- ④ International Civil Aviation Organization (ICAO), *Annual Report of Council*, Montreal: ICAO, various issues.